

# 雄勝稻作情報

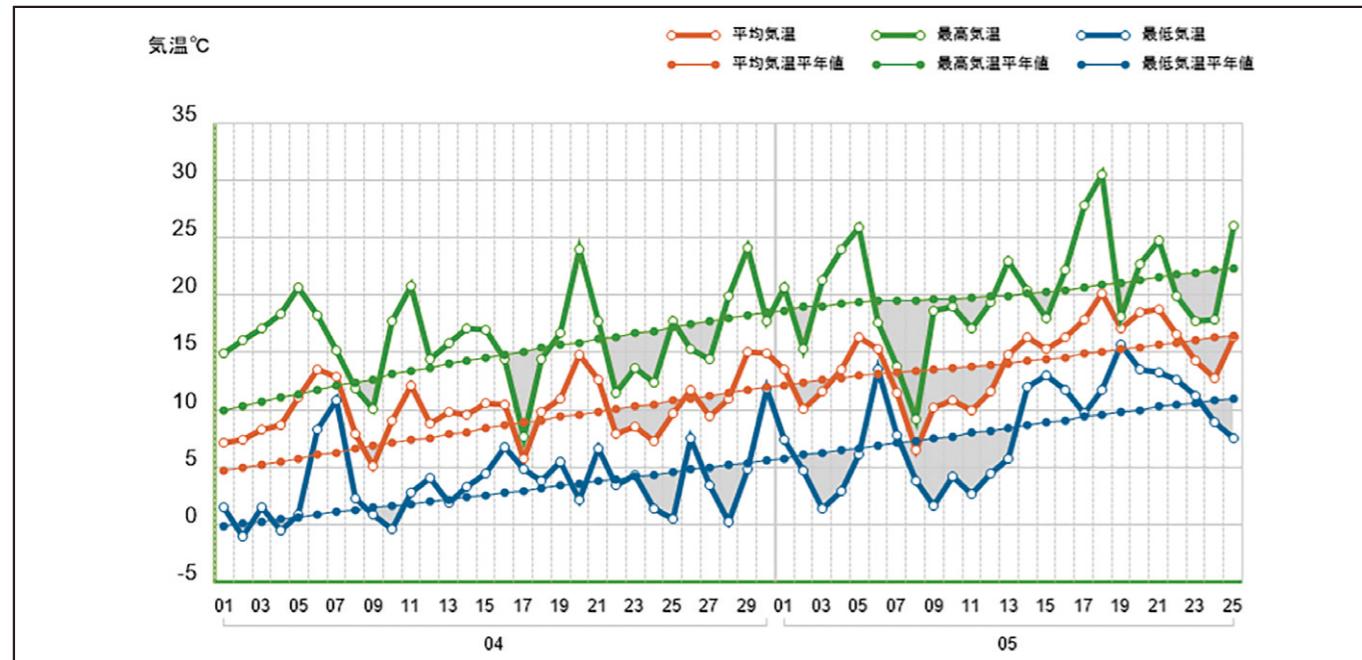
No.4 令和5年6月2日



発行・こうまち農業協同組合  
湯沢市農業総合指導センター  
監修・雄勝地域振興局農林部農業振興普及課  
雄勝地方病害虫防除員協議会

## これまでの気象経過

(4月1日～5月25日：アメダス湯沢)



雄勝管内の播種盛期は4月23日（平年より2日早い）でした。4月下旬から5月上旬にかけて、数日の周期で低温と高温を繰り返したことから、温度管理には細心の注意を要しました。期間を通して日照時間は平年より多く推移したことから、ハウス内の温度が高まり、苗の生育は概ね順調でした。

田植え作業は、5月17日頃から始まり、盛期は5月23日（平年より2日早い）でした。田植え後は気温が高く、降雨日が少なく、日照時間が多く推移したため、地温が高まり、苗の活着は順調でした。

今年の育苗期間における特徴的な気象により、苗腐敗症（もみ枯れ細菌病等）を発症させてしまったところでは、育苗箱等の資材に病原菌が付着している可能性がありますので十分洗浄し、消毒資材（「イチバン」500～1,000倍または「ケミクロング」500倍）での消毒を確実に実施しましょう。

## 東北地方予報【向こう1ヶ月の天候見通し】

【平均気温】 平年並か高い見込みです。  
【降水量】 平年並が多い見込みです。  
【日照時間】 平年並か少ない見込みです。

(令和5年5月25日発表)  
(低20%・並40%・高40%)  
(少20%・並40%・多40%)  
(少40%・並40%・多20%)

余り苗は直ちに泥の中に完全に埋めて処分して下さい！

注意！

例年、いもち病が多発しているほ場が散見されます。補植用の苗を放置しておくと、いもち病の発生源になります。いもち病の発生は周辺ほ場へも大きな影響がありますので、早期発見・早期防除に努めてください。



## 今後の管理について

### 目標茎数を確保しましょう！

雄勝地域の「あきたこまち」目標茎数

6月25日～30日頃 8～9葉期（有効茎定期）

目標茎数420本/m<sup>2</sup>確保（株当たり茎数の目安） ●60株/坪…23本/株 ●70株/坪…21本/株

※生育が遅れている場合は目標茎数まで分けつ促進を図ります。

※有効茎定期は、天候により時期が前後する場合があります。

### 浅水管理による1次分けつの発生促進

1次分けつの発生を促進し、生育初期の茎数を適切に確保するため、活着したら浅水管理とし、水温と地温を高めましょう。日気温較差を大きくすることで、第3～6節の1次分けつの発生が促進されます。

### 中干し（または深水管理）による分けつ制御

目標茎数を確保したら、6月下旬を目途に、中干しまたは深水管理で無効茎の発生を抑制します。

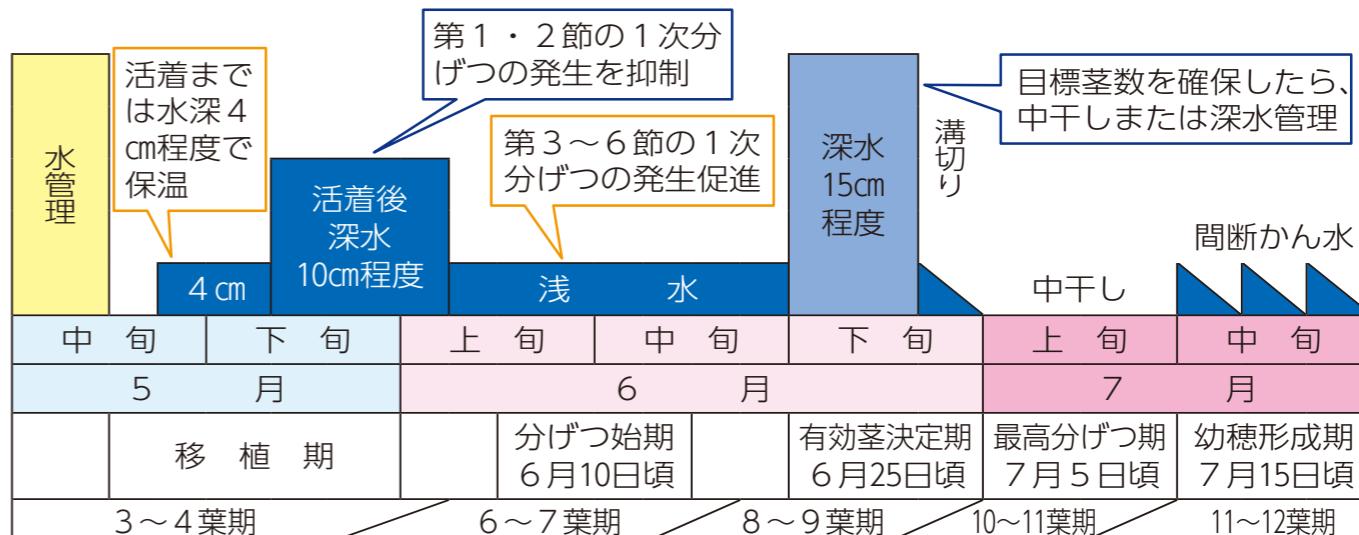
中干し期間は7～10日位とし、田面に亀裂が1～2cm入り足跡がつく程度です。

中干し終了後は間断かん水とし、土壤を酸化的な条件に保ち根の伸長を促進するようになります。

### 溝切りの適切な実施について

田面の均平が悪く落水しにくい場合や排水不良田は、溝切りを行いましょう。溝切りを行うと水の回りが早くなるため、より確実な水管理を行うことができます。

また、排水も素早く行うことができ、中干しの効果が高まります。登熟後半まで水を張ることができるため、根の活力が維持され、登熟歩合の向上に繋がります。



## 葉いもちの予防対策を徹底しましょう！

### ●サンプラス粒剤やオリゼメート粒剤の散布は感染前に！

葉いもちは例年6月20日～25日頃には感染、7月上旬には病斑が見え始めます。サンプラス粒剤（3kg／10a）やオリゼメート粒剤（2kg／10a）は防除効果を発現するまでに、散布後約7日を要しますので、**6月15日頃までに散布します。**

田植え前や移植時の箱施用剤（いもち割入り）や、移植時のペースト混和剤（いもち割入り）を使用していない場合には、確実に散布しましょう。

また、散布時は湛水状態で田面に均一に散布して下さい。

**6月15日頃まで**  
サンプラスや  
オリゼメート  
散布時期

(1週間後→)  
稻に吸収さ  
れるまでの  
期 間

6月20日  
～25日頃  
(1週間後～  
10日後→)

感 染 か ら  
い もち 病  
発 痘 ま で の  
期 間

7月上旬  
いもち病斑が  
見え始めます

#### 【葉いもち用水面施用剤を散布する際の注意点】

- ・湛水状態で田面に均一に散布し、散布後4～5日間はかん水を行わない。
- ・周辺環境に配慮し、散布後7日間は落水やかけ流しをしない。

### ●いもち病を見つけたら！

ブラシン剤、ノンプラス剤、トライ剤（予防剤と治療剤の混合剤）の茎葉散布を実施し、その後、必要に応じてビーム剤を追加散布します。

※フサライド剤（ラブサイド、ブラシン）、トリシクラゾール剤（ビーム、ノンプラス）の本田での総使用回数はそれぞれ3回以内、テブフロキン剤（トライ）は2回以内なので注意してください。

なお、育苗段階の使用もカウントされます。

薬 剂 名	剤 型		
	粉 剂 D L 3～4kg／10a	ゾル 1,000倍 100～150L／10a	フロアブル 1,000倍 100～150L／10a
ノン ブ ラ ス	○		○
ブ ラ シ ン	○		○
ビ ー ム	○	○	
ト ラ イ* <sup>1</sup>			○

\*1 トライは60～150Lで1,000倍

《いもち病ズリコミ圃場の様子》



## 微量要素肥料の追肥(調節肥)で異常気象に強い稲を!

水稻はケイ酸や苦土等の微量要素を土壤から吸収しています。

微量要素の施用は、米の生産性や品質の向上、異常気象（高温、低温、強風等）に強い稲づくりに繋がります。

微量要素入り肥料（例）

肥 料 名	種 類	施 肥 量 (kg／10a)	施 肥 時 期	備 考
けい酸加里 サンメイト K S K 28	ケイ酸 含有肥料	20kg 30kg 1.4kg	6月下旬 ～ 7月上旬	①倒伏抵抗性が高まる ②根の活力向上 ③有効茎歩合の向上 ④登熟歩合の向上
		20～40kg 20kg		⑤食味向上 ⑥病害虫被害の軽減 ⑦葉身の老化軽減 ⑧ワキの発生抑制 ③登熟歩合向上 ②有効茎歩合向上
マグホス PK化成40号	リン酸 含有肥料			

## 一発除草剤使用後の残草対策

○ノビエやホタルイが残草するとほ場内がアカスジカスミカメの産卵・繁殖場所となります。適期を逃さず、中・後期除草剤で処理しましょう。

藻類、力ナ表層はく離用除草剤	使 用 時 期 (移植水稻)	使 用 方 法	成 分 数
モゲトン粒剤	藻類・表層はく離発生時、収穫45日前まで	湛水散布	1
クリアホープフロアブル	移植直後～ノビエ1葉期まで（移植30日以内）		2
残草の種類	除 草 剤 名	使 用 時 期 (移植水稻)	使 用 方法
ノビエのみ	クリンチャー1キロ粒剤	1kg／10a… 移植後7日～ノビエ4.0葉期まで 1.5kg／10a… 移植後25日～ノビエ5.0葉期まで	湛水散布
	ヒエクリーン1キロ粒剤 ワンステージ1キロ粒剤	移植後15日～ノビエ4.0葉期まで	湛水散布
	トドメMF1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ5.0葉期まで	湛水散布
ノビエ及び ホタルイ、 コナギ、 オモダカ等	レプラス1キロ粒剤 ゲパード1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ4.0葉期まで	湛水散布
	ヒエクリーンバサグラン粒剤	移植後15日～ノビエ4.0葉期まで	ごく浅く 湛水して 散布
	クリンチャーバスME液剤 トドメバスMF液剤※	移植後15日～ノビエ5.0葉期まで ※トドメバスMF液剤はノビエ6.0葉期まで 使用量1000ml／10a 散布液量70～100L／10a	落水もし くはごく 浅く湛水 して散布

除草剤の使用時期については、上記のノビエ葉齢期よりも早めの散布で効果が高まります。

「守ろう 農薬ラベル、確かめよう 周囲の状況」6／1から8／31までは「農薬危害防止運動」の実施期間です。

農薬によって使用量や希釈倍数、使用時期や使用方法等が異なりますので、使用前には**必ずラベルをよく読み適正に使用して下さい。**